

## 平成 19 年度第 1 回塩田地域協議会会議記録

開催日時 平成 19 年 4 月 20 日（金）午後 7 時～8 時 50 分  
開催場所 転作促進研修センター 2 階会議室  
出席委員 大口会長、峯村副会長、岡村委員、工藤委員、小山委員、佐藤委員、  
中沢委員、皆瀬委員、綱島委員、林委員、平林委員、南委員、  
宮入委員、宮沢委員、山極委員、若林悦郎委員  
欠席委員 竹内敬吾委員、竹内幸雄委員、若林陽子委員  
市出席者 宮下政策企画局長、原沢まちづくり協働課長、稲垣塩田地域自治セン  
ター長、古川塩田地域自治センター庶務企画係長

### 次第

- 1 開会（塩田地域自治センター長）
- 2 会長あいさつ（大口会長）

地域協議会は塩田を発展させる母体となる組織。そんなことを念頭におきながら進めていきたい。委員は役職で出ている方もおられるということで、今回新たにお二人が代わられている。お二人にはいろいろな面でご活躍をいただきたい。

### 宮下政策企画局長あいさつ

平成 16 年度から 18 年度にかけて中塩田小学校の校舎改築事業が行われており、今年度平成 19 年度においては相染閣の移転改築事業が予定されている。また、今後塩田中学校の全面改築、塩田コミュニティーセンターの整備など大きな事業が予定をされている。

今後本協議会の議題として取り上げてまいりますので、よろしくお願ひしたい。

上田市の現在の課題として二つあり、一つが J T 問題でありもう一つが統合ごみ処理施設の問題である。統合ごみ処理施設の建設についてはふたつの候補地が選定委員会の中で示されており、現在上田地域広域連合の中で 1 か所に絞り込む作業が行われており、5 月中には絞り込みがされるのではないかと考えている。いずれにしても、様々な課題等が関係しているので、皆様のお力をいただく中で一つずつ進めてまいりたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

### 新委員 2 名紹介・あいさつ

- 3 会議事項  
（会長）

総合計画審議委員会に佐藤委員が出ているが、何か進捗があったら説明をお願いしたい。

#### （佐藤委員）

今月 27 日に全体会が行われ、その後部会にわかれて審議をしていく。

部会については、私は生活環境部会に所属しているが、討議を進めているところで、だんだん深まってきている。

(1) 「塩田コミュニティーセンター整備事業について」(報告)

(会長)

前回の会合では、市の進捗状況を聞いて、既に前センター長の話の中では設計段階に入るといった話があったのを受けて、しっかり検討したいという話であった。実際はそこまでいっていないということで、これからセンター長の話を聞いて、今後の対応を決めてまいりたい。

(稲垣塩田地域自治センター長)

塩田コミュニティーセンターについては、11月14日の協議会において事業の内容を説明させていただいている。その後の経過について説明させていただく。

センターの機能としては、支所機能、公民館、母子健康センターの行政部分を中心として、あと地域要望の施設を合わせて建設したいという方向で進めている。現在関係課所による調整会議を開催し、詰めを行っている段階となっている。

課題として、川西コミュニティーセンター、城南公民館の建設にも適用できるような人口規模や利用状況を考慮した基準づくりということをやっている。

駐車場の確保も含めた平屋か2階建てかの検討、建設期間中の仮施設をどのようにしていくか、こうした課題があって、課題を検討している段階ということである。

なお、各施設の状況だが、支所における数字は平成17年度の数字だが、住民票届け等で4887件、戸籍証明・住民証明等で16910件、所得証明・納税証明等で3249件の合計25046件となっている。

公民館の利用は1369件、23491人、公民館で受付をしている転作促進センターが277件2563人となっている。

母子健康センターは検診、相談、うぶごえ学級等のサークルを合わせて851件、11518人の利用状況となっている。

現在、先ほど申し上げた課題について詰めている段階で、本日はそんなことの説明とさせていただく。

(委員)

現在調整中ということだが、田園空間のコア施設について、川西ではなくて塩田につくるということは決まっているわけだね。その後どうなったか。それがあいまいであれば、塩田コミュニティーセンターの建物の中にそれを入れるのか。あるいは、これから塩田地域の地域の特性を生かした観光の推進にも絡めてコアがどうなっているのか教えてほしい。

(稲垣塩田地域自治センター長)

コア施設の建設については、現在の予定では平成19年度から20年度にかけて建設したいということで、土地改良課で話を進めている。建設に入るに当たっては、地域の中で維持管理をしていただける団体が必要であり、その部分が固まってから着工ということになってくるので、現在維持管理をしていただける組織体制づくりについて地元と協議を進めている。それが順調に進めば19年度、20年度に行いたいということを知っている。

(会長)

今の話のとおりで、地元で管理をお願いしたいという要請があって、検討した結果、管理は地域でやっという話になっている。市との詰めを行っているが、今月の25日に詳しくやりたいということになっている。現実には旧西塩田小学校の校庭の奥に500㎡規模のものをつくるということで、設計までできている。地域で管理運営ができれば取り掛かることになっている。今年から取り掛かって20年度に完成することになっている。観光密着してくる。そこが発信源になるから、観光地の案内とか説明とかその場所でやって、塩田全体を案内する。これからしっかり決まってきた場合には、ボランティアの説明ガイドも育てなければいけないし、そうすると地域協議会もかなりその中にタッチしていかなければいけない。今の段階では地域がいかにタッチするかという状況の中で、地域というのは特に西塩田地区だが、最終的にはこの計画も上田、川西、青木連絡協議会というものがあり、最終的にはそこで決定するということになるが、そこまでもっていく状況をつくっている段階である。

(委員)

田園空間事業は県だね。地域センターは市だね。

(委員)

コア施設は国から50%、県25%、市25%。

自治センターは市である。

(委員)

今回はセンターについて話があるかと期待していたが、もう少し待たなければいけないということか。

(宮下政策企画局長)

まず3つの機能があり、機能については問題がない。

面積について、母子健康センターは現状の面積を基本として考えている。支所についても現状ということになると思う。公民館については、現在は約720㎡。一番大きいのが中央公民館だが、ここで今調整しているのは上野が丘公民館が約1,400㎡でつくってある。倍の大きさでつくってある。そのときの話とすれば、当時年間2万8千人くらいだった。塩田公民館がこちらの建物も含めて約2万6千人なので、ほぼ同じくらいの方々がお使いになっている。

当時上野が丘公民館でも公民館をつくるに当たって、建設検討委員会を立ち上げて、他市の公民館を視察したり、公民館事業を盛り上げるための工夫等をしながら、目標を4万5千人にした。それで、竣工当時は4万5千人ということで、地域上げて取り組みますということで、現在5万6千人という、大勢の倍の皆さんがお使いになったということである。それをそっくり個々に当てはめた場合にどうなのかという議論にもなる。

次につくる場所、城南公民館でも川西公民館でも、同じものをつくっていくのか、ということ。今までの6公民館は中央公民館を除いて同じ大きさである。実際に使っている人数は中央公民館が7万人ということで一番多いが、その次に上野が丘、あとは2万5千から3万人くらいの間にある。公民館については多額の費用がかかるので、面積をどうするかということが一つの調整課題である。

それと、平屋にするのか2階建てにするのかということ。これも、塩田のセンターについては土地に余裕があるので、平屋にしてもつくれるのではないかと

いう考えもあるが、もしここでつくった場合に、当然隣の川西の所へも平屋建てという形になってくる。これからのセンターそのものが平屋建てとなった場合に、土地の手当てができないところについては買収をしなければいけない、という議論もおきてくる。塩田だけのことを考えればいいのか、という議論もある。一緒に関係団体の皆さんが施設に入ってくる。そうした団体の皆さんの面積についても一定の枠をつくっておかないといけないのではないか、ということもある。概略的な設計はいったんつくった。それは人に見せるものではないもので、いったん見せてしまうとそれが当たり前のように広がってしまうということがあって、慎重になっている。あくまでもたたき台の議論を行う上で必要な資料をつくったということで、それが即建設に向けてのものではない、ということで、多分前センター長は概略でつくったものが出来上がったというふうに勘違いしたのではないかと思われるので、その辺はご容赦を願いたい。

(委員)

目標としてはいつごろを目標としているのか。前小林局長は塩田の自治センターを一番に考えていると言っていた。それからいくと、塩田ができないとほかのところができていかないということがあるが、どうか。

(宮下政策企画局長)

一番条件が整っているのはこの地域だと思うが、いつまでと言われても、一度打ち合わせがあった。打ち合わせの中で申し上げた内容についての議論があり、それを持ち帰ってそれぞれで検討した内容を説明する中でまとめていきたい。また、新たな課題が出てくるかもしれないが、まとめる方向で進めているので、もうしばらく時間をいただければと思う。

(委員)

塩田は十数年前から陳情を申し上げて議会の採択も受けている案件である。特に委員は当時から携わっていて、そういうことを心配され、危惧されているわけだが、ぜひ早くつくってもらいたい。

(宮下政策企画局長)

平成8年当時私は企画課にいて、隣の原沢課長も一緒にいたが、その当時から要望いただいているということは承知している。

(委員)

まず、どのくらいの規模のものができるか。あるいは、塩田の皆さんの意向をどの程度汲んでいけるのか。財源である程度制約されるのか。この前つくったのは相当各階層からの意見を聞きながら、本当にいいものができた。図面までつくって陳情した、と思う。端的に言って11億5千万くらいか。当時。そのくらいの計画をして図面まで提出してあるが、そういうものがある程度財源で絞られるというところもまた考えていかなければいけない。いずれにしろ、地域住民の意向とを十分尊重して検討の中に加えていただきたい。

塩田は2万人の人口の中に職員が4名。武石は4,141人に38人の職員がいる。こんなバランスの取れないことはないので、早く塩田地域もセンターをつくって、充実したものができるといっていただければと思う。

(原沢まちづくり協働課長)

川西と城南と塩田、この3つが建設予定となっていて、総合的に検討する中で、

規模とか、ある程度施設の基準となるものを検討しているところである。  
武石の人員については、合併が新設対等合併ということで、旧町村については当面7割程度の業務を残しましょうということになっている。

(委員)

住民の意向については。

(原沢まちづくり協働課長)

当然協議会の意見を取り入れることになる。

(委員)

やはり協議会の意見というのは重要視するということ。

(委員)

どの辺の段階からか。設計の段階とか。

(原沢まちづくり協働課長)

ある程度市の方の考えも示して、そこへ固まった状況の前あたりとなる。

(委員)

塩田中学がじきにやる。塩田中の建設委員会の時も、開かれた学校で、塩田中学校を地域の人たちの拠り所。家庭科室のようなものができれば、そこで料理教室をするとか、そういう施設で生け花とか、そういう趣味的なものも学校の新しくできる校舎の中へ取り込むとか取り込まないとかという話があった時に、今のセンターができるとなると、地域の要望を取り入れていくときに整合性を取っていかないと、そういうことはないと思うが、両方とも同じようなものをつくってもらって、どっちか空いてしまった、というと無駄じゃないかと、それよりもこういうものがほしかったというようなことにならないようにしなければ、ということ去年のうちにやった。中学は設計が終わっている。

(会長)

もう一度設計を皆さんにお諮りする。今最終のものをつくっている。

(委員)

面積的なことと機能的なことを含めて、塩田中と自治センターとの使い勝手と整合性が取れるようにしてほしい、という要望がある。

(原沢まちづくり協働課長)

おっしゃるとおりと思うので、その辺は学校の方と調整したい。

(委員)

ほかにそういう計画があれば、バランスをとっていかなければいけないという市の立場はわからないことはないが、皆環境が違うと思う。塩田で平屋だったらほかのところも平屋にしなければいけないとか、面積が狭いから買い増ししなければいけないとか、そういう考えは必要ないのではないか。その地域地域に合った特性を生かしながらどうやってやっていくか、ということを考えていかなければ先に進まなくなってしまう。例えば塩田が平屋になったから川西も平屋でなければいけないということはないのではないか。その辺は考え方の中でバランスをとってやっていただきたい。

(宮下政策企画局長)

予算的な面があって、一番は駐車場がどのくらい確保できるかということ、利用者本位で考えれば駐車場が多いということが一番だが公民館という機能を

考えれば、一番中高年の方がお使いになっている。80%くらいはそういう方々なので、平屋でつくった方がいいということが考えられるが、一番いいモデルを作った時に、その次の地域の皆さんが同じものを要望してくるということが考えられるわけで、その辺が、今後調整していく上で課題を残してはまずいということがあって、慎重に議論している。

(委員)

だからといって塩田が遅くなるという理由にはならない。

(宮下政策企画局長)

遅くなるわけではなくて、ただ上田市全体のことを市は考えていかなければいけないので、ひとつモデル的なものをつくった場合に、他の地域の施設にも引き継がれていくということが今までの行政の中ではあるので、慎重に対応している。

(委員)

それによってより良い施設ができればいいではないか。

(宮下政策企画局長)

より良いものをつくるべく議論している。

(委員)

自治センターを含めてやるのは塩田と川西だけ。

(委員)

現実の問題としては同じようにということはありませんと思う。

その辺のところをトップの皆さんの優秀な頭脳で考えてもらって、平屋もよければ2階建てもいいよ、というバランスをとってもらいたい。

(委員)

両方検討していただくということで。

(委員)

先ほど合併の問題で、これは仕方がないんだとおっしゃったが、武石とか真田とか人口の割合に多いこと。それはやむをえないと思うが、そういうことを早く解消していかないと、上田市全体の流れがおかしくなる。4,000人くらいのところに40人も職員がいて、2万人のところに4人しかいないなんて。これはいくら合併だって、それは考えていかないといけないと思う。

もう一つは、センターと公民館で併用して建てるというところはどこにあるか。上田市の中にはない。だから考え方としては、センターと公民館を別々に建ててもやぶさかではない。一番理想的なことはまとめて建てるということがいいが、そういう考えもひとつあると思う。もう一つは、財源的に制限はあるのか。いくらくらいしか出せないということ。理想とか地元の意見を聞いて作り上げて、相当かかったと。それでものんでくれるのか、それともこれくらいの範囲内でやらないといけないとか、そういうこともきちんとしておかないと、なかなか難しくなると思う。

(原沢まちづくり協働課長)

財源は限られた中でつくることになる。合併については、当面はそういうことで7割程度残すということにしてあるが、合併の効果は出していないといけないということと行政改革という視点でセンターの見直しはしていくことになる。公民館とセンターのことは、川西も同じように併設を考えている。

(委員)

今まで、既存で一緒のところはないね。

(原沢まちづくり協働課長)

それはない。

(委員)

正直何を検討していいかわからないという報告で、困っている。宮入委員がかかわってご苦労されたようだが、以前大勢の委員が集まって計画した話があったが、それがなぜ消えてしまって、平屋がいいか2階がいいかという根本的な問題からいくとしても無理だ。予算的なこととか、いろいろ考慮してやらなければいけないのは当然あるが、そういったものの説明なく意見を求められても我々も困る。

(会長)

現実にはそれを出してもらうために今日はお願いする形になる。市の調整が進んだところで、皆さんからの意見をお願いするということになる。

(委員)

前回大勢の方がご苦労いただいて、相当金も掛けたと思う。それがどうして表に出さないか、それはわかるが、今回白紙に戻る状況になってしまうのか。

(会長)

白紙に戻す云々の段階ではなく、次回はそれも検討しながら考えていくということ。現実には消えたわけではない。議会でも採択になっているから、消えてはいない。それと市から出てくるものを検討しながらよりよいものをつくっていこう。この前の会議の中では、もう既に建設委員会はなくなっている所以この地域協議会で検討しろということになっている。

(委員)

設計されたものだけが引き継がれるということはないんだね。

(会長)

行政としてはその辺はふまえているか。

(原沢まちづくり協働課長)

全て入るというわけではないが。

(委員)

要望あがったものを勘案して、これからどういうものがあるか、というものをこれからつくるわけだから。

(委員)

それも検討課題として入るということだね。

(会長)

それは検討課題には必ず入る。ただ、上限例えば11億3千万、そこまで達するかは市が考える。例えば5億までしか出せませんということになると、その中でどこまで絞っていくか、ということになる。

(委員)

11億5千万を5億の予算でやっていくなんてことはとても。

(委員)

財政に制限があるか、ということはそのことを言っている。11億5千万の予算で

いいよ、となれば修正していけばそれで済む。

(原沢まちづくり協働課長)

その11億くらいというのがひとりあるきしては困る。

(委員)

前の案については検討してないということか。

(原沢まちづくり協働課長)

11億という話が、そういうものについてそう思われると困る。

(委員)

金額に青天井はありえないということで、現実にはどこかで歯止めがかからなければできない。それがどこになるかはわからないが、それに我々が研究したのもその中でやっていくしかないということになる。

(委員)

当時はつくりたいものを出したと。それでやったものが設計書までできていると、そういう形になったのか。

(委員)

陳情して採択になった。採択になったまま。

(原沢まちづくり協働課長)

それはコミュニティーセンターの建設についてという陳情で、規模までを含めたというものではない。コミュニティーセンターの建設は市としてもできるだけ早くという気持ちは変わっていない。

(委員)

地域の人が集まって、要望を出そうと言うことで陳情したと、そのくらいのことか。

(委員)

商売人に図面を引いてもらって、支所にある。採択になったまま。

(委員)

自治会連合会と振興会連絡協議会で出し合った。

(委員)

一番先は川西と両方で大きいものをつくるということだった。それが規模が大きすぎるということで塩田になった。

(委員)

その前に別所小学校の跡地が、平成8年に閉校になって、地域住民で話をしたら、センターがほしいというようなことが出てきた。そこで、センターと同じ塩田地区内でパッシングしないようにしましょうという話からだんだん始まった。設計は地域の要望を聞いたのではなく、だいたいこうやってやればというたたき台という形。そういうふうにして考えていこうということで陳情して採択された。採択されているから白紙には戻っていない。これから、この会ができたので、そこへこの話を持ってきて、行政の皆さんも研究をして、ただし委員も言われるように、はじめに十何億ありきではなくて、大体どのくらいかかりそうかということで、青天井なのかということ、当然そうではないだろう、ということになるとこれから地域の皆さんの意見を聞きながらやっていこうという段階ととらえたらいいのではないか。



(委員)

前に各種団体から意見をきいたものはセンターにある。それを検討課題の一つにしていけばいい。

(委員)

先人の皆さんがご苦労していただいたものを無にするようなことではいけない。それは考慮してほしい。

(会長)

皆さんの意見を行政でも受け止めていただいて、早くそれを返していただきたい。我々としては、塩田に合ったセンターをつくっていく必要がある。誇れるもの、モデルになるものを考えていきたい。皆さんの意見をいただいて、よろしくお願ひしたい。

(委員)

先ほど上野が丘公民館が2万とか4万とか話があったが、人数だけ言われても規模を判断しろと言われてもわからないが、利用回数が多くて人数が多いこともあるしその点について。

(委員)

その辺は確認で、例えばいくつも会議が重なっても使えるとか、何百人なら収容して会議が持てるとかというものも含めようということ。300人くらいのホールがほしいというのもあったし、いくつかの会議があった時に使えないという場合があるが、どのくらいの会議があったらカバーできるか、ということ公民館から上げてもらった。

(委員)

建設委員に携わっていない、という立場で聞きたいが、コミュニティーセンターということは、いろんな各種団体が利用できる複合的な施設をつくりたいというのが私どもの願ひだったと思う。そうやってはじいたら11億何万だと。それに対して、遠まわしにそんな財源はないと、限られた財源の中でやるからそれは無理だと、受け止めているが、これからたたき台を出してもらうにしても、市では、公民館は公民館だと、自治センターは自治センターだと、そういう立場でやってもらった方が仕事としてはやりやすいのか。包括的な施設としてお願ひしているから金がかかってしまうと思うのだが。

(原沢まちづくり協働課長)

塩田のコミュニティーセンターは併設を考えている。

(委員)

それではそうした立場で具体的なことも、要望を含めてこれから議論していいわけだね。そうでなければ、市として、前の図面を受けてこのくらいの規模しかできませんというものをを見せていただかないと何とも言いようがない。

(原沢まちづくり協働課長)

それをお示しするのが現時点ではできない。

(会長)

要望は出したので、それを受け止めていただいて、動いていただきたい。

(委員)

ある程度完成した図面ではなくて、初歩的な、このくらいのところにこういう

ものとかいうものをつくりたいが、財源はいくらくらい、そのくらいのことを始めに言ってもらおうと地元でこうだと、財源の枠内といてもわからない。

(会長)

できるだけ早く、実現できるように、前小林局長も塩田を一番に考えていると明言されているので、ぜひそんな形でお願いしたい。

女性の立場で何かあれば。

(委員)

今まで基本ができていたのにそれをなしにするということはないで、それを踏まえて塩田にあったものをつくってもらいたい。

## (2) 塩田地域協議会地域まちづくり方針

「地域特性を生かした観光の推進」について

(会長)

まちづくり方針の中で2番目の項目として観光の推進を上げている。市長の考えでも観光は上田市のリーディング産業として位置づけている。特に塩田は文化財、自然のすばらしいものがあり、塩田が観光でしっかりと動いて上田市の中のリーダー的な立場が取ればいいな、と思う。

今日は、それぞれ委員の皆さんの一人ずつ思いを聞かせていただいて、次回に観光の一つの方向づけをしていって、最終的には意見がまとまれば市長に話を持っていくようにしたい。

(委員)

郷土に誇る歴史と文化をそのままにしておくことはない。中世の文化がこれだけ栄えた塩田平の歴史と文化を観光と結びつけて、具体的に私どもも大いに応援したい。私どもが地域を見直し、勉強して、やがてはこれが環境問題にも地域おこしにもつながるという思いでいっぱいである。地域協議会でも重く受け止めていかねばと思う。

(委員)

観光の推進だから、あるものを生かしてどういうふうに進めていくかが今日のテーマ。具体的にどうすればこれらの特性が生かせるかということ。具体的な推進策は持ち合わせてはいない。

(委員)

具体的な推進というと、皆さんの知らないところでいっぱいやっている。それを全部言えというと、名古屋へ行く東京へ行く広告を配っているポスターを作っている、といろいろなことをやっている。どういうことを言うのか、思いを言えばいいのか、具体的なことをいうのか。

(会長)

観光によせる自分の思いを言ってほしい。フリートークなので、委員の言ったことは全体の方向づけとなり、思いはみんな同じだと思う。みんながどういう思いで観光に取り組むか、具体的なことでもいい、夢でもいい、それを言っていただいて、次回にそれをまとめて取り組んでいきたいということ。今日は皆さんの思いを言っていただきたい。

(委員)

委員の言われたことはみんな同感ということで、私の感じを申し上げてみたい。市で大変ご苦労いただいて、上田城址の千本桜、年々盛況で来ていただいている。全員一丸となって観光案内、駐車場とやっけていただいている。ただ、できればそこに来た人が、花見をしてただ帰ってしまうのではなくて、塩田の方も回ってお帰りいただくようなことができないかと。そういうふうになれば塩田の観光も文化財も生きはしないかと、考える。

もう1点は、相染閣が19年度移転改築ということだが、今度つくる関係では物産館とか観光的なものができるという話を聞いているが、具体的にどの程度の建物でどんなふうな利用ができるのか、わかったら、それを地域としてどういうふうに生かしていくか、そういうことを検討しなければいけないのではないかと、という感じをもっている。

(大口会長)

今の点の資料については次回の会議でお願いしたいと思う。

(委員)

上田市大好きで特に塩田平大好きでこんな所に住んでいて良かったな、と思っている。塩田平が全国にアピールできればと考えている。お亡くなりになった塩入委員と話をしていたら、世界遺産にしたいという話があった。そんな夢みたいことと話をしたら、「そうじゃないんだ。塩田平という田園風景、山々の美しさ。田園があって緑が美しい山あいの場所に、すばらしい遺産がいくつもあって、それが現在も残されているという、田園風景と遺産とマッチングしたこんなすばらしいところは世界にないのではないかと」ということだった。「世界遺産に登録しなくても、そういうことを住民が思うことが、それが採択されたかどうかよりもそういうことが重要ですよ。」というような話をしたのがついこの間だが、その核となるのが別所線だと思っている。是非別所線に乗ってもらおう。5月26日、27日のウォーキングは別所線に乗って、それがスタート地点で回るのが、別所温泉観光協会とタイアップしてやるという案があるということで、それもすばらしいと思う。別所線の駅で降りたら、ここからはこういうウォーキングコースがある、ここからはこういうウォーキングコースがあるという、リュックを背負って塩田平をみんなが歩いて行って、歩いた先にはきれいな風景だけではなくて文化遺産まであったら、勉強もできたりするし健康にもいいし、いいまちになりそうかな。泉池の辺もすごくきれいで、その辺にごみの施設ができるという話もあって、陳情されているようだが、泉池のあたりもとてもきれいで、古戦場マラソンのコースに昨年から取り入れられたが大成功で、ウォーキングコースもすばらしくて、コースをいろいろつくってもらえればと思う。

(委員)

塩田というのが私どもは下の方で、いつも置いてきぼりをくっている。自分たちの自治会にはお宮と池くらいしかない。池についても塩田平にはこういう池があって散歩コースがあってというようなことをやらないと、下の方は、私どもは川辺のそばになるから、山ぎわばかりでなくて、お寺のあるところばかりでなくて、神社まわりなどをやれば少しはいいんじゃないか、と思う。

よく旅行に行くと、大型バスが旅館の前までいくが、別所は大型バスが入って

いけないということがあるので、大型バスが入れるようにした方がいいのではないかと思っている。

景観の問題に関心がある。今どんどん発展してきている。広告が無制限に立っている。これを何とかしてもらって、看板の高さはどのくらい、大きさはどのくらいという統一できないかなと思っている。安曇野あたりで規制しているところもある。今のうちにやらなければどんどん出てくる。

(委員)

千本桜をみても、観光の効果はてきめん。生島足島神社が日本の真ん中だという話があり、そういう十分にあるものを団塊の世代、私たちの世代が別所温泉なり鹿教湯なり、地域の旅館を生かして、リュックをとという形で滞在できるようなそんな観光づくりをしていただければいいかな、と思う。

田園空間を塩田地区に残すという、パノラマから見た稲穂の美しさと青田の美しさは皆さんにお見せしたいというくらいすばらしいのに、西塩田地区に通ったところに何階建てかの建物が建ってしまった。そういうものを許可しないようなことはできないかと思ったりもした。

(委員)

私どもの会は展望台をつくったりしたのだが、塩田平が景観準百選のなったが、自然の豊かさ、田園ののどかな感じのものを、基本的にはそういったものを守るようなこと、生活しているものもそういった意識を持つ必要がある。制約するというのは問題があって大変だと思うが、柳町が住民協定を結んで町並みづくりをしている。単体でもいいから住民協定のようなものをつくっていければ、そういったものの集合が全体の塩田平の自然が豊かな、そういった形のものになるのではないかと思う。

そういうものをつくりあげれば、自然と観光客が来るのではないかと思う。安曇望会は安曇岡山のふもとを夢マップをつくって、車を入れないで馬車で通らせたりという夢を描いているが、基本的には自然を生かした観光が大事だと思っている。

(委員)

今日別所線で降りて、整備された別所の道を通って野倉まで往復したが、別所までは有名だが、野倉まで観光客が来てくれたらなあと思う。お墓の下に巨人の足というがデリラポッチというが、ああいうところに立て札を立てたり、上の方もハイキングコースのような感じにして、もう少し開けたらいいな、と思う。野倉に道祖神があるが、普通の道祖神は女性の手が上になっている。意図的にそうになっているのか、もしわかったら教えてほしい。私の姑は耳が聞こえなかったが、野倉には耳の神様もある。野倉もとてもいい所なので、行ってみたい。観光も含めて野倉も開けたらいいなと思う。

(委員)

夕方とか夜とか車が通るが、道が迷路になってしまって、行きたいところに行かないという。東京からきて生島さんへ行きたいけど、道がなくなってしまうのでどうしたらいいでしょう、という方が結構ある。家のところまでは広いがその後道がなくなってしまう。そういうものも観光の一番のもとだから、きちんと整備していただければと思う。

たまたま公民館で30年代の貴重な映像を見させてもらった。それがカラス田楽とか塩田鯉の養殖など見させてもらった。そういうものが40くらいある。そういうものも塩田の昔の文化があったことを知らせてもいいと思う。

(委員)

風光明媚、塩田の中はすばらしいものだが、皆さん塩田の中に住んでいるから熟知しているが、これをいかに外で出すかということが観光だと思う。今やっている風林火山とか半田大僧上のこととか非常にいいIPRになる。そういうものを活用しながら塩田を売り込んでいくということがこれからの観光につながると思う。

(委員)

だれのための観光かということをもまず第一に考えなければいけない。地域の人は自分の住んでいる所で、知ってはいるがあまり関心がないという部分も出てくると思う。

それから、観光を点でとらえたらダメで、面でとらえていかなければダメだと思う。千本桜であっても、千本桜を見に来た人はどうするかというところだけで、みんなその次は高田へ行って、その次の日は高遠へ行って帰ってしまう。塩田には全く関係がない。そういう人たちが塩田に寄ってくれることを考えなければ意味がないのではないか、という気がする。

もう一つ、お金のもうかる観光にするのかしないのか。そういうことも考えないと、将来的にいきづまることもあるかなと、あとは皆さんおっしゃったとおりである。

(委員)

千本桜については、金曜日に行ったら別所からバス2台くらい、夜桜見物をしており、こういうふうにやってもらうといいな、と思った。

今回は協議会が中心とになるが、前に何回かよって、観光ビジョン、結局その後どうなったかわからない。わたし達も食べ物の部分で何回か会議をもったのだが、せっかく話し合っても、どれだけでも形になっていかなければ意味ないかなと。行政に声をかけてもらうのはいいが、こういうところもそれぞれの立場で出てきているが、そのときも同じようなメンバーだなと思ってもいた。できれば継続して形にしてほしい。

観光について、私は富士山だが、西光寺とかあり、小さいところから、私たちの地域はこういうものがある、見てもらいたいものがある、というものを地域の住民が話し合っ出て出して、細かくマップで取り上げてもらったりして、最終的には地域おこしにつながっていかないと、観光というものは一部の人だけの、実際に観光にかかわっている人たちの観光になってしまう気がする。観光から最終的には地域そのものが発展していくようなもの。私は農業をしているので、観光と農業が結びつければ、と思っている。別所は観光で生活していかなければならない人もいっぱいいる。今住んでいる富士山もそれにのってみんなが生き生きできるようなことになればいいと思う。

(委員)

別所温泉の観光協会に勤めているもので、儲からない観光というものは困るなと思う。観光というのは結論的には情報発信だと思う。いかに情報を発信して、

それをどうやって仕掛けていくかということ。野倉にコーヒー店があるが、それが人気があって、別所にどんどん電話がくる。どうしたら行かれるかと。雄大な山を目前に見て冬は炭火で、秋は栗が落ちている。ああいう風情というのが非常にいい。今の観光は自然が一番だと思う。

点で考えてはだめだという話があったが、そう思う。別所温泉にお願いと言ってもお客さんのニーズ。とにかく人が来ないと観光は始まらないから、武石の花桃と農業、別所も宣伝している、それから菅平のスポーツと合宿も宣伝している。上田市内の城下町、公園も映画もしている。どんどん宣伝すると塩田にも人が入ってくる。塩田の観光活性化と矛盾するようだが、情報をきちんと伝えて仕掛けていけば、上田公園の桜も旅館でバスを仕立てているが、最高 150 人くらい行ったが、夏はコンサートをやるということもあるが、そういうことが大事だと思う。観光課にもお願いしたいことは、7 月にお客さんが止まった。水害で上田市行方不明と全国ニュースで出た。今別所温泉水浸しですか、と電話がくる。そこで、パソコンのサイトで上田市観光課を検索したら上田市はあれは一時的なものだというような、ということも別所温泉のサイトもやっているが、それが今言う情報発信だと思う。あとはいかに仕掛けていってお客さんにきてもらうかということ。看板の話もそうだし農業の話、お寺、何もなくても情報を伝えて仕掛けていけば必ずお客さんは来ると思う。

(委員)

塩田の歴史とか知らないなので勉強したいと思っている。情報を伝えるということとは効果があって、この前無言館の窪島さんがテレビに出たが、新聞にも何度か出たが、ああいうものも効果があっていいと思う。

(委員)

バスがご飯を食べられるところをぜひつくってほしいと思う。上田に寄らないでどこかへ行ってしまう。バス 1 台くれば何十人かがそこで地元のものを味わっていただける。

建物の色規制はできないものか。看板だけでなく、建物が田園には合わないものがあるが、そういう色の規制もできるのであればいいと思う。

(会長)

皆さんが前向きにとらえていることがよくわかった。ずっと思ってきたことだが、観光道路を充実させなければいけない。地域が大事にできる観光というものも何人かから出てきた。

今までは独自で動いているものが多すぎた。せっかく地域協議会が塩田の全体のまとめ役ということでできたので、面にとらえる、ということをやっていかなければいけないと思っている。情報発信の意見もあったが、千本桜も情報があったからあれだけになった。去年は千台超えたということ。せっかく上田に来たら塩田にも回っていただく形のものと考えていければいいのではないかと。地元の人たちが、こういうすばらしいものがあるということを理解していただくものも考えていかなければいけない、ということも観光戦略の中で大事なことである。

今日はまとめはしないが、次回もう少しまとめたものにして、市へぶつけるものがあたら出していれば市の方に要望を添えていきたいと思う。

さらにもう少し考えていただければと思う。

(委員)

観光客は塩田というものをどういう目でみているか、そういうことがわかったら教えていただきたい。それに反応していけばいいのだから。

(会長)

今の点について、観光課と話をしてどんな状況か確認しておいてほしい。観光の中で、世界遺産について委員から話が出たが、実際には動いている。その点について。

(委員)

世界遺産をめざす市民の会の説明

(委員)

団塊の世代が3年間でかなりの金額が出る。3月末に退職された人がこれで1ヶ月になる。連休をはさんで2ヶ月くらいでどれくらいの方が来たかということ、調べる方法があるか。

(宮下政策企画局長)

団塊の世代を対象としたツアーを組んでいる場合はエージェントに確認すればわかると思うが、不特定多数の方を対象にしてやっている場合は把握はできないと思う。

話を聞いていて、なぜ塩田に文化財が多いのかと考えるわけだが、上田藩は5万3千石だがその中で3万石は塩田地域。塩田地域は豊かな地域だった。豊かな地域に塩田北条氏も居所をかまえた。文化財が他の地区より多いということは、黒坂先生も生前おっしゃっており、都が置かれていない地域で、青木、塩田になぜ文化財が多くあるのか、それは都がないところでは唯一この地域だけだということである。そんなことをおっしゃっていた。世界遺産の話もあったが、世界遺産の登録をめざして、地域が一つになって自分たちの地域地盤をまとめて取り上げることのPR効果もある。観光客は世界遺産をやっているところは相当なものがある、と興味をもって出かけていくということ。取組みは継続していただきたい。

(会長)

別所線も観光の中で大きなウエイトを占めている。この23日月曜日から別所線存続支援チャリティー絵画展が創造館であるので、地域協議会の皆さんはぜひ顔を出していただきたい。創造館で朝9時から4時半まで、23日から30日まで。全国から注目されている線なので。

田園空間の話は先ほどやってしまったので、また次の機会に詳しくやる必要があったらやりたいと思うし、中学校の改築についても、現時点では設計が最終段階に入っている。最終段階のものができたら、改築委員会もあるし、地域協議会の中でも出していきたい。

(3) その他

(委員)

塩入委員の分が欠員になってしまっている。私とすれば個人依頼の立場で出られていたと思うが、そういった方をこうした中に入れていくことはどのようにお考えか。

(会長)

今話があったように個人依頼という形になっている。20人以内ということで、途中なので、補充しないでいきたいと考えている。

皆さんの意見もお聞きしていきたい。

(委員)

この辺の郷土史に関してある程度専門的な知識、そういう方を一人 補充されたらどうか、ということがある。

(委員)

塩入先生に匹敵するような方がおいでになればぜひ個人依頼ということで入れてほしい。

#### 4 その他

次回の開催日は5月25日(金)に決定する。